

# 日衛連

JAPAN HYGIENE PRODUCTS  
INDUSTRY ASSOCIATION  
発行／社団法人 日本衛生材料工業連合会

# 紙おむつNews

No.52

2005.07

特集  
Feature Articles

## デンマークの介護施設最新事情

日衛連では、今年5月に福祉先進国・デンマークを訪れ、首都コペンハーゲン市の高齢者住宅と、近郊のファールム市の複合型ナーシングホームを視察しました。直接・間接税が合わせて50%を超える高負担だからこそ実現した高福祉、日本とは異なり、保険ではなく税金による保障という形態で展開する福祉の考え方と実態をご紹介します。

### ● デンマークの社会保障

#### 歴史の中で整えられた社会福祉制度

充実した社会保障制度で知られるデンマークは、北海とバルト海をさえぎるユトランド半島を中心に、約500の島からなる国です。国土面積は43,000km<sup>2</sup>とほぼ九州と同じ広さで、人口は約512万人です。国民所得は日本と同程度で生活水準が高く、所得格差の低い平等社会といえます。

デンマークの高齢者福祉制度は、100年にも及ぶ長い歴史の中で改善が繰り返され今日に至っており、特に、1950年代以降の女性の社会進出が大きく影響しています。

デンマークの社会福祉の特長は、日本のような積立による保険システムではなく、社会全体が負担する租税により財源を確保する保障システムをとっている点です。租税による高齢者年金支給はデンマークが初めてといわれています。現在の高齢者福祉では67歳以上、すべての人々に国民年金、住宅補助金制度、住宅改造補助、暖房費補助などが適用されています。また、福祉・医療行政の役割分担は明確で、国が立法と予算の割り振りを行い、県が医療、市町村が福祉を担当することにな



っています。教育や医療は基本的に無料です。

高齢者福祉では施設への入居費用は住居として市町村が負担します。必要な経費も同様に、入居経費以外に最低でも1,300クローネ(23,400円/1クローネ=約18円として。以下同様)の公的年金が支給されます。これに個人年金を加えた金額が月収ということになります。

## デンマークの福祉制度の基本原則

また、身体的状況、価値観など刻々と変化する高齢者自身の環境に対し、デンマークの福祉制度は人を基本に柔軟に進化し続けていくことを前提としています。人間の方が福祉制度に順応するのではなく、ニーズによって制度自体を変革していくという発想です。1982年に定められたデンマークの福祉基本原則では、

- ① 人生の継続性の尊重
- ② 高齢者の自己決定の尊重
- ③ 残存活力の活用

が挙げられています。

## 高齢者ケアと職員の教育

1988年以降、普通の生活から隔離された施設的色彩の強い高齢者施設の新設が禁止され、それに代わる独立した住居形態を基本とする新しいタイプの介護住宅を整備するようになりました。その種類は「高齢者住宅」、「介護型住宅」、「ナーシングホーム」、「保護住宅」に分けられています。デンマークの多くの市町村では、同じ職員がナーシングホームと在宅の両方で介護を提供する統合ケアが行われ、施設に入らなくとも、自宅で自分が必要とするケアサービスを受けられるようになっています。

これらを担当する介護職員の教育については、1990年に教育制度が改正され、ホームヘルパー、看護助手、介護士、ナーシング・アシスタントの教育が統合されました。今日では通常一年間の社会福祉・保健職員養成教育を受けることが義務付けられており、また、養成学校において2年半の過程を終えると、社会福祉保健専門員の資格を得られます。

## 高福祉の財源は高額・高率な税金

デンマークでは教育、医療、福祉の財源である税金は高福祉・高負担が原則で、所得税は平均50%（国税と県税が各15%、市税が14~21%）、付加価値税（日本の消費税にあたる）は全商品・サービスに25%、その他タバコ、アルコール、自動車等へは特別の消費税がかかります。たとえば訪問した介護施設のセンター長の例を紹介すると、月額所得：36,000クローネ（648,000円）から6,800クローネ（122,400円）が控除され、残りの29,200クローネ（525,600円）に対し、所得税率42%＝12,264クローネ（220,752円）が課税されます。さらに、残りの所得に対しても、付加価値税25%が適用され、全部使うとすれば、さらに5,934クローネ（106,812円）の税金を払うことになります。トータルで所得に対する税率は50.55%にも達します。

税金が高いと批判する人たちもいますが、この高額な税金があるからこそ「ゆりかごから墓場まで」の高度な福祉・介護支援が可能となっており、最終的には現在の税制が支持されています。

## ● 介護現場を視察する

### コペンハーゲン市 高齢者住宅「SKJULOHJGAARD PLEJEHJEM」

#### 施設の概要

1998年に創設されたケアつきの高齢者住宅。民間団体が建設・所有して、市が運営する形態で経営されています。敷地面積は3,200㎡。ロビー等は広々とした吹き抜けになっていて、室内の壁面は赤、黄色、グリーンと色彩豊かに配色されて、非常に明るい印象を作り出しています。ゆったりとくつろげるガラス張りのテラスも印象的でした。

入居者の居室はすべて個室で54㎡と広く、ベッドルームと居間の2部屋で構成されています。施設の所有物である介護ベッド以外は、応接セット、絵画、家族の写真、その他調度品など、入居前に生活していた家から持ち込まれたものでした。入居前と同じ環境で生活が出来るよう配慮されている点は、福祉基本原則の「人生の継続性の尊重」そのものが貫かれていると感じました。

1階、2階にある食堂には対面式のオール電化のシステムキッチンが配備されていました。その他の共用施設は、筋力トレーニング機器が完備しているトレーニング室、ヘアーサロン、フットケア（ネイルカット）等がありました。



広々とした吹き抜けのテラスでくつろぐ入居者。天井はガラス張りで太陽がたっぷりと降り注ぐ。



写真上：54㎡とゆったりした個室の内部。居間には家族の写真や絵画など、入居前の生活を持ち込んでいる。写真中はベッドスペース、写真下はトイレ。



共用施設のひとつ「美容室」。高齢者のオシャレは若々しさを保ち、ボケ防止対策にもなるという。

## ケアスタッフと入居者

センターでは少なくとも1名の看護師の常駐が義務付けられています。センター長は看護師の資格を持った市の公務員で、外科、整形、内科の看護経験者です。民間団体から資格を認定され市が採用するとのこと。その他のスタッフは14ヵ月の実習を経たヘルパー、26ヵ月の実習を経た社会福祉士の資格を有している人たちで構成されていました。

入居者は認知症、身体障害者、パーキンソン患者等を合わせて40名。それに対し、ケアするスタッフ34名に8名のパート職員を加え合計42でした。入居者1人あたりのケアスタッフは1.05人で、ケアスタッフの方が多いのが印象的でした。

入居者の年齢は65歳から105歳で、平均年齢は85.7歳。平均入居期間は約2年とのことで、要介護状態の末期に近い状態でないと入居できないことをうかがわせました。入居の可否は自治体の審査によって決めますが、最近予算が厳しくなってきたおり、在宅ケアが拡大してきているとのこと。

入居の家賃、食事代や洗濯代、損害保険などは個人負担となっています。損害保険は、この施設が24時間常時開放されているために、盗難等を配慮して加入するものです。経済的に困難な人には、これらの費用も市や国が支援しています。

この施設の年間予算は1,100万クローネ/年(約1億9800万円)で、入居者1人あたり27.5万クローネ(495万円)となります。この86%にあたる946万クローネ(1億7,000万円)が人件費とのことでした。

入居希望のウエイティングリストは市が管理しています。以前は入居資格が認定されると、どの施設に入るかを聞かれ、数箇所の中から選択することができましたが、最近の入居条件が厳しくなり、まず入居希望先の施設を決めて、そこの空きを待つようになっていました。入居できるまでは施設のショートステイ、デイサービス等を利用しています。

## ファールム市 複合型ナーシングホーム [LILLEVANG NURSING CENTER]

首都コペンハーゲンの北西20kmにあるファールム市は、緑深き森に囲まれ、2つの湖を望む人口18,404人の小さな地方都市です。20年前に3つの小さな村が合併したファールム市の当時の人口はわずか4,000人。それが1996年には約18,000人と、4倍強に増加した背景は、ひとえに行政と市民の協調メカニズムによる“魅力的な街づくり”に励んだ結果といわれています。その要因は、市税の大幅な軽減(1984年・21.3%→1996年度・17.3%)と、財政のスリム化、そして、「児童の保育所保証」、「成人の雇用保証」、「高齢者の施設入所保証」に加えて、「自然環境と調和した住宅の整備」など、“住

みやすさ・暮しやすさ”をハード・ソフト両面で拡充することに、成功した結果といわれています。

1998年9月、ファールム市にオープンした新しい複合型ナーシングホームは、緑地帯の保護区域を見渡すことができるファールム市西部の景観のよい地域に位置しています。放牧場に隣接したロケーションで、総敷地面積33,000㎡、建物面積は10,000㎡もある広大な施設です。日本の施設を見

慣れている目には、その広大さはまさに圧倒される思いでした。

敷地内に4棟ある建物はすべてフラット(1階建て)で、1棟が3つに分かれ、それぞれに個室8部屋と共同スペースがあり、



LILLEVANG NURSING CENTER全景

8名を1ユニットとするグループホーム形式を取っています。個室は合計96部屋でデイケアセンターも併設されています。

施設の主なコンセプトのひとつは入居者の「自己決定権の保証」、「財産の自己管理」など、「自分のことは自分で」という考え方です。よって、料理、洗濯、掃除、ゲーム、朗読、体操といった活動が、それぞれの住居での活動の中心となります。この施設は、高齢者および身体障害者向けに設計されており、痴呆や総合的なケアを必要とする人々のニーズに対応しています。海外からの訪問も多く、英国ブレア首相の福祉プレーングループもここを訪れて高い評価をしたほか、アイルランドもここをまねて4つの施設を作ったといわれています。

### 個の尊重と共有スペースの充実を両立

L字型の住居棟は共有の庭を囲む形で配置されており、住居部分との間に設置したガラス製のパネルで、住居空間と外側の連続感を出すとともに、共有エリアに差し込む日光により快適な雰囲気を実現しています。

L字型の住居棟には、1棟に広さ約40m<sup>2</sup>の8戸の個室があり、8戸のフラットは、住居棟の住民専用の共有エリアを囲むように設置されています。共有エリアの面積は約200m<sup>2</sup>で、一つの住居棟の生活総面積は約520m<sup>2</sup>とゆったりと作られています。8人が団欒する共有エリアには、テレビ、テーブル、アンティーク調の調度品があり多くの絵画が掛けていました。また、各個室の前には小さな庭があり、直接共有の庭と各自のテラスに出ることができ、生活にゆとりを与えています。

個室は高い柔軟性を持たせるため、可動式のパーティションで居間と寝室を分割しています。個人の行動や介護状態によって自由にレイアウトすることが可能となり、スタッフにとっても作業しやすい環境となっています。寝室と浴室の間に入浴用のクレーンがあり、浴室は、介護者2名が最も介護しやすいように設計されています。トイレは介護者が2人、余裕を持って介護が出来るように設計されています。

また、デイケアセンターをはじめ、リハビリルーム、美容室、足治療、歯科やディナーパーティー用の設備などを備えたアクティビティ・センターがフラットに隣接して建設されています。



カラーコーディネートされた明るい食堂(上)と、システムキッチン(下)



身体能力の回復と筋力維持のためのリハビリルーム

## ● 介護に使用している紙おむつ

デンマークで見た紙おむつは、日本で使われているパンツ型、テープ型の紙おむつや尿取りパッドのほかに、大型のパッドを非常に伸縮性の高いネットパンツと組み合わせて使用するタイプ、腰にベルトを巻いて使用するテープタイプなど日本ではあまり見られない紙おむつが使われていました。

ネットパンツと組み合わせて使用する大型のパッドは、ヨーロッパでは広く使われています。もうひとつの腰にベルトを巻いて使用する紙おむつは、日本の禪(ふんどし)をイメージすれば理解しやすいタイプで、日本のテープタイプとほぼ同じような使用感であろうと考えられました。これらはいずれもヨーロッパ有数の紙おむつメーカー、スウェーデンのメンリッケ社の製品です。

コペンハーゲン市の高齢者住宅「SKJULOHJ-GAARD PLEJEHJEM」では、すべてハルトマン社製の紙おむつを使用しており、種類は尿パット、テープタイプ、パンツタイプで、日本とほぼ同様でした。入居者の紙おむつの費用はまとめ買いでコストメリットを出して、それ以前の1カ月10万クローネ(180万円)から、現在では8万5千クローネ(153万円)に節減しているとのこと。デンマークではメーカーによるコンサルティングセールスが浸透しており、紙おむつの購入費を安くするというだけでなく、紙おむつを効率的に使う工夫によってシーツ類の洗濯費用の軽減を図るなど、トータルでの経費節減を図っていました。要介護者のおむつ交換は、時間を決めて全員同時という定時交換ではなく、汚れた都度交換するという個人個人の状況に合わせて対応していました。

一方の、フェールム市 複合型ナーシングホーム「LILLEVANG NURSING CENTER」では、ネットパンツとひょうたん型の大きなパッドを組み合わせたメンリッケ社の紙おむつ「Tena」を使用していました。ネットパンツは1枚3.5クローネ(63円枚)で3ヵ月に5枚くらいを使用しているとのことでした。テープタイプは腰にベルトを巻くタイプが使用されていました。

ここでも以前は、尿取りタイプの紙おむつを使用していましたが、使用者が「おむつはトイレの

都度交換する」として、汚れていなくても紙おむつを交換してしまうためにコストが問題となりました。ネットパンツタイプに切り換えてからは、下着と同様にとらえているためか、トイレごとの交換はなくなり、単価は上昇したものの、枚数が減り、結果としてコストダウンを実現しています。



日本の禪のように腰にベルトを巻き、そこに紙おむつを挟み込んで使うテープ型紙おむつ



「SKJULOHJGAARD PLEJEHJEM」で使用されている紙おむつ



「LILLEVANG NURSING CENTER」で使用されているひょうたん型のパッドとネットパンツ

# 紙おむつ・ライナー生産数量（日衛連調べ）

〈単位：トン、千枚〉

		平成15年		平成16年		平成17年								
		年計	前年比%	年計	前年比%	1~3月	前年比%	4~6月	前年比%	7~9月	前年比%			
紙おむつ	大人用	（パンツタイプ）	テープ型	千枚	320,097	125	322,798	101	78,652	107	90,595	110		
			トン	40,342	128	41,461	103	10,067	107	11,567	108			
		パンツ型	千枚	358,717	121	428,920	120	104,933	105	128,674	123			
			トン	30,403	128	36,052	119	8,391	96	9,892	115			
		合計	千枚	678,815	123	751,718	111	183,585	106	219,269	117			
			トン	70,745	128	77,512	110	18,458	102	21,459	112			
		フラット型	千枚	393,263	101	381,023	97	90,500	97	92,344	93			
			トン	27,205	102	26,614	102	6,299	96	6,413	93			
		（パッド型/その他）	尿とりパッド	千枚	—	—	1,982,360	—	514,786	113	522,941	110		
				トン	—	—	85,012	—	21,836	103	22,571	113		
	軽失禁パッド		千枚	—	—	288,592	—	113,253	176	109,905	160			
			トン	—	—	3,518	—	1,294	123	1,200	170			
	合計	千枚	1,924,016	129	2,270,951	118	666,464	128	669,312	123				
		トン	79,346	131	88,530	112	24,374	110	24,908	121				
	合計	千枚	2,996,094	123	3,403,692	114	940,549	119	980,925	118				
		トン	177,295	124	192,656	109	49,131	105	52,780	113				
	乳幼児用	（パンツタイプ）	テープ型	千枚	3,609,528	110	3,373,206	93	818,313	98	953,289	110		
			トン	122,110	107	110,162	90	26,515	95	30,887	112			
パンツ型		千枚	3,111,607	119	3,195,305	103	912,788	120	939,149	119				
		トン	139,996	125	142,088	101	36,895	91	38,640	118				
合計		千枚	6,721,136	114	6,568,511	98	1,731,101	108	1,892,438	114				
		トン	262,106	116	252,250	96	63,410	92	69,527	115				
合計	千枚	9,717,229	117	9,972,203	103	2,671,650	112	2,873,363	116					
	トン	439,401	119	444,906	101	112,541	97	122,307	114					
ライナー	千枚	80,522	96	70,532	88	18,322	99	12,773	69					
	トン	127	96	111	88	29	99	20	69					

※製品分類については、平成10年1月から発表 ※平成17年1~3月分より海外生産分を含む ◆平成17年の尿取りパッドの集計に一部誤りがあり、修正値を記載いたしました。

## ■寝たきりの人のおむつ代は、確定申告すると医療費控除が受けられます■

昭和63年1月からおむつ（寝たきり用）は、医療費控除の対象になっています。控除を受けるためには、①医師の発行する「おむつ使用証明書」②使用者の名前とおむつ代であると明記した「領収書」が必要です。詳しくは病院・医院、または税務署、市区町村役場にお問い合わせください。

紙おむつ・生理用品・衛生材料に関するご質問ご意見お問い合わせは下記へ